

学番	34	県立長岡岡陵高等学校
----	----	------------

令和4年度

学校自己評価表 (報告)

学校運営計画		
<p>学校運営方針</p> <p>1 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聡明な判断 (自律・自助) <p>広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断のできる人間に育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い力 (誠実・勇気) <p>強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい人間に育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温かい心 (敬愛・協和) <p>相手の立場に立つてものごとを考え、人の心を汲み取って思いやる温かい心を持った人間に育てる</p> <p>【期待される社会的役割等 (スクールミッション)】</p> <p>○選抜性の高い受験を目標に、主体的な学習と部活動、学校行事への取組を通して、大学等上級学校における学びの基礎力、未来を生き抜く人間力を育成する</p> <p>○企業等と連携した地域探究活動により、課題理解と解決能力を養い、新たな価値を創造する資質と能力を身に付け、地域発展の中核となる人材を育成する</p> <p>○長岡・川西地域唯一の高校として、「やっぱり、好きが向陵」のごとく、誰からも信頼され、愛され、誇りあふれる、地域の拠点校を目指す</p> <p>【勤務時間の意識改革】</p> <p>○勤務時間の適正な管理と業務の見直しを行い教員の時間外の勤務時間を削減する</p>	<p>1 学力の保障「授業第一」</p> <p>(1) 生徒が主体的に取り組む授業、わかる授業を実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を行い自教科はもちろん、他教科の授業を参観し意見交換を行い、改善点を共有する ・年2回の授業改善研修、特にアクティブ・ラーニングの研修を行い授業改善に活かす ・模擬試験やスタディーサポート、生徒へのアンケート等の結果をもとに、授業改善により学力の向上及び生徒の授業への満足度を検証する <p>(2) 学力を向上させ、大学進学を主とした進路希望を達成させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学等進学率75%以上、国公立大学合格50人以上 ・数値目標を達成するために、進研模試3教科偏差値50～58の生徒を増やす <p>2 成長の保障「文武一貫」</p> <p>(1) 社会人として自立し、人に優しく、心身ともに逞しく成長し、社会に貢献する人間を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や特別活動等を通じて、徳育・体育にも力を注ぎ、生徒の全人格的な発達を目指す ・元気づく挨拶することができ、何事にも勇気を持ってチャレンジできる生徒の育成を目指す <p>(2) 生徒指導について、職員で課題を共有し指導する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の醸成と自己管理能力の向上を図る ・「生徒指導研修資料」を活用した校内研修を3回以上実施し、ケースに応じたグループワークを行い、生徒指導力を高める。 ・課題を抱える生徒には、生徒に応じたチームを作り、迅速できめ細やかな対応を行う。 <p>3 校務分掌組織を生かした学校運営を行う</p> <p>(1) 全職員の学校運営参画意識を高める</p> <p>(2) 運営委員会を定期的に開催し、情報交換、学校ビジョンの策定等に努める</p> <p>(3) 部体制をもとに部長がリーダーシップを発揮しながら、学年との調和を図り学校運営を進めて行く</p> <p>1 今年度の主な取り組み</p> <p>(1) 生徒の家庭学習習慣をつくり、学力を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の確保、適切な課題提供、Classi等による効果的な指導 <p>(2) 授業の工夫・改善、新カリ対応…資質・能力の育成 主体的・対話的・深い学び等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の向上、ICT機器のマストアイテム化、新科目・学習評価への対応 <p>(3) 大学入学共通テストや新しい入試等への対応、進路指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストや新しい入試、大学個別入試等の情報収集、対応 ・生徒・保護者等に正確で有用な情報提供、目標達成への相談・指導の充実 <p>(4) 総合探究指導体制の確立 (向陵型スタンダード化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年連携、地元企業等、県の事業 (鮭プロジェクト)、NIEとの連携 <p>(5) 安心・安全なより良い学習環境づくり、県作成教育プログラム等の実施、教員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重、いじめ・差別のない、思いやりのある人間関係づくり <p>(6) 成年年齢引き下げへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変わることの周知、保護者等の協力を求める <p>(7) 教員の時間外勤務時間削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月80時間、年間720時間を超える教員をゼロにする <p>(8) 40周年記念事業</p>	<p>昨年度の成果と課題</p> <p>○研究授業や校内研修等による授業改善を進め、アンケート等により生徒の理解度、満足度を測って、授業改善に活かした。</p> <p>○学校行事や部活動などの情報を生徒会指導部と教務部が連携し、ホームページで情報発信した。各学年の掲示板等による連絡の機会を増加させ、保護者への情報提供に努めた。</p> <p>○国公立大学合格者数・進学者数とも過去最高の人数となった。大学等進学率はやや低下したが、</p>
	年度の重点目標	具体的目標
<p>基礎学力を身につけさせ、進路希望を達成させるための学習指導力の確立</p> <p>入学から卒業までの計画的キャリア教育の推進</p> <p>生徒指導の徹底による校内規律の確立と特別活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の到達度観測、授業改善、シラバスの精度向上 ・効果的な宿題、予習、復習を前提とした授業、小テストによる確認等 ・進路ガイダンス、進路講演会、オープンキャンパス参加、大学講義体験、キャリアアップセミナー(卒業生講話)等によるキャリア教育の充実と職業観の醸成 ・SNS教育プログラムによるネットモラルの指導、SOSの出し方に関する授業によりいじめ、自殺の未然防止指導、頭髮指導、制服着用指導を行う。 ・校則遵守の指導を繰り返し行い、規範意識や社会性を育成する。 ・清掃や校内美化の指導を通して、社会性や公共心を育成する。 	

<p>生徒の進路実現に向けて、引き続き進学意識を高める指導を行っていききたい。</p> <p>○精神的に不安定な生徒や特別な支援が必要な生徒に対し、特別支援教育推進委員会が中心となり、個別の事案にはチームを組んで対応した。今後も生徒の悩みや不安を早期に解消していく取り組みを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康管理や食育等を通して、健全な生活習慣の確立を図る。 ・人権尊重の精神やいじめを許さない意識を育み、自他の相互理解の上にたった共生・協力の精神の涵養を図る。 ・HR活動・生徒会活動・学校行事の特別活動の活性化に努め、生徒の自発的・自治的活動を促進し、自主・自律の心を育成する。
	<p>保護者、地域社会との連携を図り開かれた学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に情報発信を行う。 ・ホームページの更新回数を増やす。 ・バス停の清掃や校外のゴミ拾いを通じて地域貢献活動を行う。

重点目標		具体的目標	具体的方策	B評価の基準	評価		
基礎学力を早期に身に付けさせる学習指導の確立	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の到達度観測、授業改善、シラバスの精度向上 ・効果的な宿題、予習、復習を前提とした授業、小テストによる確認等 	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した年間行事計画を作成し、授業時数の確保を図る。 ・ICT環境を整備し、学習活動の充実を図る。 ・授業改善研修の実施や互見授業の設定により、教科指導力の向上や指導法の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の通り授業時数を確保 ・学習環境について学校評価アンケート肯定的な評価80%以上 	A	A	
	進路指導部		スタディサポートや進研模試を活用し、基礎学力の定着度を確認し、指導の工夫・充実を図る。	進研模試7月と1月の3教科GTZ(学習到達度)比較で、1・2学年ともB3(偏差値50程度)以下の割合5%以上減少	B	B	
	生徒指導部		挨拶、頭髪服装、スマートフォンルールを始めとして校則遵守の指導、徹底を図る。また、アンケートを用い、生徒の悩み等を早期に把握するよう努める。	「学校生活に関わるアンケート」6. 7. 8において、「まずは十分である」以上が80%以上。	A	A	A
	1学年		朝学習を実施する。	年間150回	A	A	
			週末課題を実施する。	年間30回	A		
			一日平均2時間の家庭学習を定着させる。	定着度60%以上	B		
	2学年		朝学習を実施する。	年間150回	A	A	
			週末課題を実施する。	年間30回	A		
			一日平均2時間の家庭学習を定着させる。	定着度60%以上	B		
	3学年		週末課題を実施する。	年間20回	A	A	
朝学習(自主学習)を実施する。		年間100回	A				
4年制大学進学希望者については、平日3時間、休日4時間の家庭学習を定着させる。		定着度60%	B				
入学から卒業までの計画的キャリア教育の推進	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス等による大学入試システムの理解 ・高大連携事業やオープンキャンパス等による進学意識の向上 ・キャリア教育による職業観の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立・私立を問わず様々な大学の分野系統別大学講義体験を、1・2年生対象で実施し、進学意欲の向上と意識の啓発を図る。 	12分野以上の系統別講義の設定と実施、及び生徒全員のレポート提出	A	B	
	生徒指導部(図書視聴覚)	学年毎の進路講演会、また特に、3年生向けのガイダンスを積極的に実施し、模擬試験結果の振り返りや新大学入試のシステムを理解させ、進学意欲の向上を図る。	各学年1回以上の進路講演会、及び、3年生対象ガイダンスの年2回以上の実施	A	B		
		長期休業中のオープンキャンパス等に積極的に参加させ、進路目標を明確にするとともに進学意識を高める。	新大オープンキャンパスへの1・2年全員参加とレポートの提出	B	A		
		基本図書及び生徒希望図書を充実させる。	リクエストや要望に応える。	A			
		学校放送等で円滑な運営を行うために、視聴覚委員に視聴覚機器及び放送機器の操作等を指導し、視聴覚委員会の活動を促進する。	視聴覚委員会の円滑な活動を支援する。	A			
進路に関する講義・講演会を実施する。	年2回	A					

計画的キャリア教育の推進	1 学年		読書指導・探究学習を行い、自己のあり方や社会との関わりについて考えさせる。	読書課題の実施 2 回 探究学習発表会の実施 年 1 回	A	A
			進路関係見学会等への参加を促す。	大学見学・体験入学等	A	
			スタディーサポート・模擬試験結果を踏まえ、教員が個別指導を行う。	年 1 回	A	
	2 学年		進路に関する講義・講演会を実施する。	年 2 回	A	A
			読書指導・探究学習を行い、自己のあり方や社会との関わりについて考えさせる。	読書課題の実施 3 回 探究学習発表会の実施 年 1 回	A	
			各種進路関係見学会へ参加させる。	大学等の見学を実施	A	
			スタディーサポート・模擬試験結果を踏まえ、教員が個別指導を行う。	年 2 回	A	
			保護者向けの進学講演会を実施し、進学に関する理解を深めてもらう。	年 1 回	A	
	3 学年		保護者向けの進学講演会を実施し、進学に関する理解を深めてもらう。	年 2 回	A	A
			模擬試験の結果を踏まえ、担任による個別面接指導を行う。	年 2 回以上	A	
			学年だよりを通し、進路指導部と連携して進路情報を提供する。	月 2 回以上	A	
			長期休業中に進学補習を実施する。 平常補習を実施する。	夏季休業中10日以上 計画通りに実施		
生徒指導の徹底による校内規律の確立と特別活動	生徒指導部	・ネットモラル教育、頭髮指導、制服着用指導を行う。 ・校則遵守の指導を繰り返し行い、規範意識や社会性を育成する。	日々の教育活動を通じ、頭髮服装指導を行う。 生徒指導部を中心とし全職員の協力のもとSNS教育プログラム、SOSの出し方に関する授業を行う。 自転車通学街頭指導の実施を行う。 年3回の校内研修の実施。	・SNS教育プログラムの実施 ・SOSに関する授業の実施 ・年3回校内研修の実施 ・「学校生活に関するアンケート」の項目 6, 7, 8, 9 の回答において、「まずは十分である」以上が 80%以上。	A	A
	生徒指導部 (管理保健)	・心身の健康状態を意識し、適切な自己管理ができる実践力を育成する。(保健)	①定期健康診断を通して、自分の発育や健康状態を把握させる。 ②疾病管理中の生徒に、定期的に管理状況の確認と健康相談を行う。 ③心の問題を抱える生徒に対しては、早期発見に努め、関係職員、保護者、関係機関と連携しながら対応する。 ④健康や保健に関する全体指導を行う。	①4月から6月に実施 ②行事や長期休業前に年6回程度 ③個別対応は随時。「心の健康アンケート」年2回 ④「性に関する指導」「救急法講習会」実施 保健日より年5回以上	A	
		・校内の環境整備活動を通して、安全かつ清潔な生活習慣を身につけさせると共に、公共心を育くむ。(清掃)	①ゴミの分別と削減を徹底する。 ②清掃用具の管理と整備を行う。 ③行事の機会を生かして、清掃指導の強化と公共施設としての意識づけを行う。	①委員会生徒と職員でゴミ分別指導を徹底する。 ②環境整美委員会で年2回点検する。 ③文化祭、卒業式、学期末の大清掃で指導を強化する。	A	
		・災害発生時に、安全確保と人命確保の行動がとれる実践力を養う。(防災)	避難訓練を通して、災害発生時の意識を高め、防災の知識と実践力を身につけさせる。	新年度早期に避難訓練を実施し、避難経路及び避難方法等の指導を行う。	A	
	生徒会指導部		生徒会諸活動、HR活動、学校行事を通じ、協力して諸活動を成し遂げる達成感を持たせる。	・体育祭、聡慧祭、球技大会、聡慧会総会(年2回)等の計画的実施と事前のクラス討議。 ・専門委員会(年2回)。 ・生徒会オリエンテーション。 ・壮行式	A	
男女平等、人権教育・同和教育推進委員会	・人権尊重の精神やいじめを許さない意識を育み、自他の相互理解の上 にたった共生、協	各種研修会に積極的に参加し、レポートとしてまとめ、職員全体で共有する。 新入生を対象とした学習歴アンケートを行い、活用する。	参加した研修を職員会議等で報告・共有する。 アンケート結果を職員会議等で報告・共有す	B A		

	力の精神の涵養を図る。 ・HR活動・生徒会活動・学校行事をととして生徒の人権意識の醸成を促す。	生徒・職員向け人権教区・同和教育講演会を実施し、人権意識を醸成する。 副読本「生きるV」、ビデオ教材などを活用した授業を、ホームルームで行う。委員会で、教員が活用できる教案を作成する。	る。 講演会の実施し、生徒の意識が向上した。 ホームルームで人権教育・同和教育実践する。	B	B
保護者、地域との連携	教務部	・学校ホームページやClassiなどを活用し、地域や保護者・生徒への情報発信を行い、教育活動の公開に努める。 ・公開授業を設け、保護者・地域の教育関係者に情報を発信するとともに、授業改善の契機とする。	・月1回以上HP更新やClassi配信を行う。 ・公開授業アンケート肯定的な評価80%以上	A	A
	生徒指導部	・PTA・後援会活動の運営において、PTA・後援会役員および保護者との連携を密にする。 ・PTA会報の発行等で、保護者に情報発信をする。	・PTA活動の参加について学校評価アンケート積極的参加50%以上 ・PTA会報「向陵」を年2回発行する。	A	A
	進路指導部	・「生徒の日常生活についての心得」を発行し、保護者との連携を密にしていく。また、いじめ防止基本方針を周知する。 ・「保健調査票」と行事前の「健康調査」の実施を基本とし、必要に応じて保護者面談や受診の勧めを行う。また、「保健だより」を発行し意識啓発を行う。	・年3回の発行、PTA総会時に資料を配付し、説明する。 ・「保健調査」年1回、「健康調査」年2回、面談等は随時「保健だより」年5回以上	A	A
	生徒会指導部	「進路の手引き」を発行するとともに、学年進路や進路指導主事を講師とした保護者対象の進路講演会等を実施し、保護者に対して的確な進路情報を提供する。	保護者対象アンケート「進路情報を適切に提供」『まずは十分』以上の割合が全学年85%以上	B	B
	生徒指導部(管理保健)	生徒会諸活動を活発にし、成果を生徒会刊行物等により保護者に発信する。	新聞「聡慧」発行(年2回) 会誌「飛翔」発行(年1回)	B	B
	1学年	健康で清潔、かつ節度ある生活ができるよう留意する。	健康・環境に関する広報活動を適宜行う。	A	A
	2学年	総会時の学年PTA、保護者面談を通して生徒の現状を理解させ、学年だよりで学校の状況を伝える。	学年PTA 1回 保護者面談 1回 学年だより年35回	A	A
	3学年	総会時の学年PTA、三者面談を通して生徒の現状や学校の様子を理解してもらう。学年だよりで学校の状況を伝える。	学年PTA 年1回 三者面談 年1回以上 学年だより 週1回	A	A
成果と課題	<p>○進路指導においては、国公立大学合格者数が62人と目標を大きく上回ることができた。学校推薦型選抜や総合型選抜での出願が増加傾向にあり、進路指導部と担任の連携を一層深め、より丁寧な出願指導が課題である。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大が教育活動に影響した場面があったが、行事内容を見直すなど適切に対応することができた。特に体育祭、聡慧祭は生徒が主体的に企画、運営する方向で積極的に活動した。今後も生徒の主体性を尊重しながら効果的な支援・指導をしていくことが課題である。</p> <p>○ICT機器の整備(生徒一人1台端末、職員用Ipad)、ICT職員研修により、ICT教育環境が整備された。これらを生かして、主体的・対話的で深い学びを実現するため、今後も授業改善を進めていくことが課題である。また、Classiを効果的に活用し、学年通信、進路情報、生徒指導情報、アンケート等を発信した。</p> <p>○創立40周年記念式典、記念講演、記念事業(40周年記念誌作成、生徒玄関に校名板の設置、同窓会から楽器寄贈)を計画どおり実施した。</p>		総合評価	A	